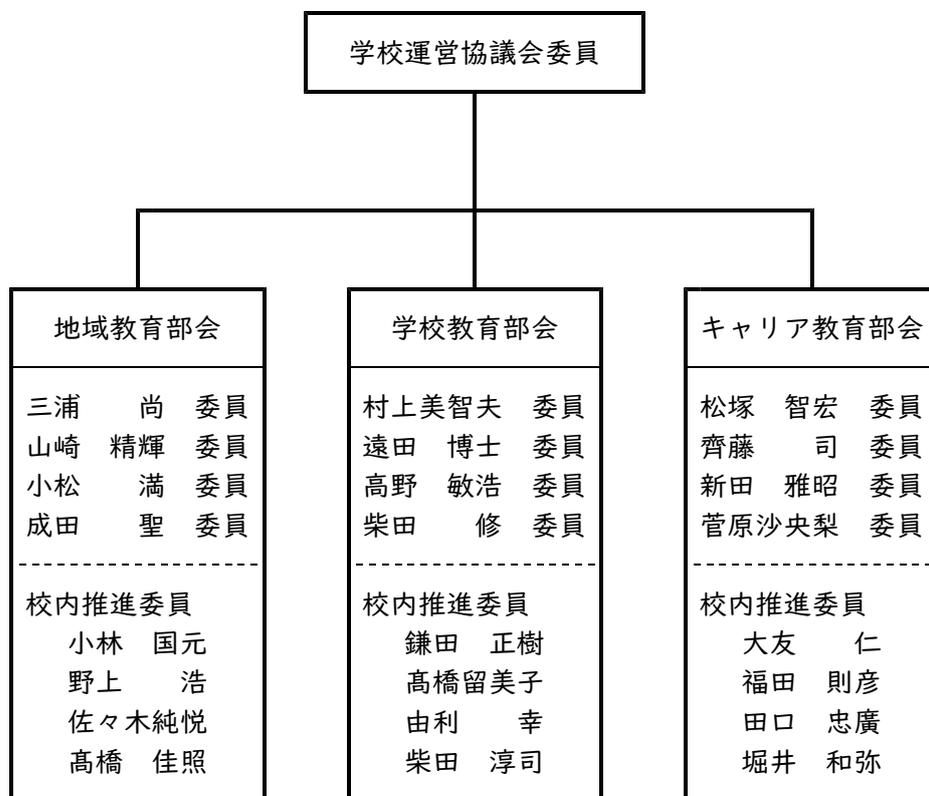


令和7年度 コミュニティ・スクール  
第3回学校運営協議会 議事録

組 織 図



日 時 令和8年2月5日（木） 15時00分～16時30分

会 場 本校大会議室（3F）

次 第 1 開会式

- (1) 校長挨拶
- (2) 諸連絡

2 協議会

- (1) 各部の主な大会成績、進路内定状況について
- (2) 分掌の成果と課題について
- (3) アンケート結果について
  - ①学校評価アンケート（保護者、教員）
  - ②授業評価アンケート
  - ③カリキュラム・マネジメントに関するアンケート（生徒、教員）

3 閉会式

- (1) 教頭挨拶
- (2) 諸連絡

参加者 委員 7名

村上美智夫、山崎 精輝、齊藤 司、成田 聖、高野 敏浩、菅原沙央梨  
柴田 修（校長）

※欠席者 三浦 尚、松塚 智宏、小松 満、遠田 博士、新田 雅昭

敬称略

校内委員 11名

堀井 和弥、福田 則彦、鎌田 正樹、由利 幸、田口 忠廣、柴田 淳司  
大友 仁、高橋留美子、小林 国元、野上 浩、佐々木純悦

※欠席者 高橋 佳照

記録 菊地 克信

### 校内課題研究発表会について

報告（福田）

本日、選択教室3にて各科代表による課題研究発表会を実施しました。発表はリモートで配信し、2年生が各教室で視聴しました。学校運営協議会委員の高野様、菅原様には会場にて参観いただき意見を頂戴しました。

感想（高野委員）

先ほどは、機械科（3DCADによる設計）、電気科（大工花火、点字を扱う機械製作）、土木コース（コンクリートカーヌー）、建築コース（3Dによる家の作成）の発表を参観しました。私は大曲工業の卒業生ですが、当時と比べ皆さんはすごい研究をされていると感じました。特にコンクリートカーヌーでは、全国大会の映像が流されましたが、ダントツ1位でした。「コンクリートでそのような安定した物が作れるのか」と思うとともに全国優勝2連覇達成に感心しました。各科の頑張りに「すごい大曲工」と感じました。ひとえに先生方や、バックアップしてくださる多くの企業のことであることを聞き、すごい環境にいることに感動しました。

### 会議資料（6部）

令和7年度 コミュニティ・スクール（第3回学校運営協議会）

令和7年度 学校評価（保護者）

令和7年度 学校評価（教員）

令和7年度 授業評価アンケート

令和7年度 カリキュラム・マネジメント アンケート結果

大曲工業 CS通信

※「令和7年度 分掌の成果と課題」・「評価シート」は事前配付済み

### 諸連絡

本日は、所用により5名の方が欠席となりますが、いただいている意見を協議会の中で紹介できればと考えています。

#### 1 開会式

(1) 校長挨拶（柴田 修 校長）

本日は、御多用中にもかかわらず、第3回学校運営協議会に御出席いただきましてありがとうございます。日頃より、本校の教育活動に対しまして、御理解・御協力を賜り、感謝申し上げます。

学校運営協議会を設置しているコミュニティ・スクールは、保護者や地域住民等が一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、教育ビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みのある学校です。

学校、保護者、地域住民等が教育の当事者となることで、学校及び地域の課題解決に取り組むこととなります。一緒に参画、協働することで、地域の教育力が育つことにもなると思います。

関わる大人たちの顔が見える関係となり絆が深まり、大人のコミュニティも成長すると思います。

学校を中心に保護者、地域住民等がつながり、大人たちの学校のために協働して動く姿が、子供達に力をつけることになるのではと思います。

本日は、1年間の本校教育活動の実践の検証が中心となります。

皆様から忌憚のない御意見をお願いいたします。

## 2 協議会

### (1) 各部の主な大会成績、進路内定状況について（堀井教頭）

大会成績は11月のマーチングバンド・バトントワーリング東北大会までは第2回学校運営協議会資料に載せているので、それ以後について紹介します。バレーボール部は県南新人では全て1セットも取れず予選リーグで敗退しました。強豪ひしめく県南地区で苦戦しています。本校では入学後に始める部員が多く、来年度は1勝を目指して頑張るとのことです。バドミントン部は全県新人で団体3位となり東北大会に出場しました。WROというレゴブロックで組み立てたロボットをプログラミングして作業をさせる競技がオンラインで行われ、決勝大会となる全国大会へものづくり同好会が出場し、ブロンズを受賞しました。ソフトテニス部は全県インドア大会の決勝で惜しくも敗れたものの、団体2位となり東北大会に出場しました。特筆するものとしては、1月に北海道で行われたマイコンカーラリー全国大会です。機械科の熊谷雅也君がベーシック部門で全国第3位の快挙を成し遂げました。ものづくりコンテストでは電気工事部門、電子回路組立部門で共に県で第2位となる好成績を収めました。進路内定状況は、先月26日時点でまとめたものになります。今年度の県外求人数は大きく増えています。前回の協議会でもお話ししましたが、昨年度までは学校に届けられた求人票を基にカウントしていましたが、今年度より「ハンディ」という高校生向けの求人票デジタル管理システムを導入し求人の数え方が変わったため、このような数字になりました。3年生の在籍生徒数は111名で、就職予定者と進学予定者の合計が110名です。残りの1名は電気科A組の生徒で関東の私立大学に進学する予定です。希望通り決まると進学が28名となり、割合は75%が就職、25%が進学となります。就職予定者については1回目の試験で内定をもらえなかった生徒が5名おりましたが、2回目以降も良く頑張り内定をもらいました。内定者83名の内、県内が40名、県外が43名で、比率は県内48%、県外52%となります。昨年度は、県内54%、県外46%と県内が若干多かったのですが、今年度は県内就職者の割合が僅かに少なくなりました。具体的な就職先は資料をご覧ください。

### 追加の成績（電気科主任 野上）

電気科B組の課題研究で「マイクロビットの研究“点字君”」が、秋田県立大学で開催されたマイクロビットコンテストのエキスパート部門で最優秀賞を受賞しました。

### (2) 分掌の成果と課題について

#### ○1年部（堀井教頭）

特に高校生活に慣れさせること、基本的な生活習慣を身に付けさせることを意識しました。朝学習によって資格取得への意欲が高まりました。

#### ○2年部（堀井教頭）

昨年度に続き「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉にして指導しました。1年生の時よりは成長していると感じますが、まだまだ行動力が幼い所が観られます。新田委員からは「ネットトラブル回避」への取り組みをお願いしたいとのことでした。

#### ○3年部（堀井教頭）

生徒自身が良く頑張り、現在の進路未決定者は1名です。部活動より推薦があり、今月下旬に関東の私立大学を受験する予定です。順調な進路状況は、学年部、進路指導部、学科の連携がうまくいった結果であると思います。

#### ○総務部（福田）

円滑化については、とにかく「コミュニケーションを取る」ということで、対人あるいはメールであっても「情報共有する」ということに努めて行ったおかげで問題なく今のところ進められています。「関係機関との活動の充実」につきましては、本校PTA役員の皆様との関係は非常に良好であると思っております。PTAの交流大会にも沢山の方に参加していただいておりますので本当にありがたいです。ただ、学校全体としてPTA総会となると出席者数が少し減ります。例年の課題ではありますが、なんとか上げていければと考えております。また、学校運営協議会におきましても皆様から沢山ご意見をいただき、校内でも共有でき、こちらも学校運営に生かしていきたいと考えています。本校の「危機管理マニュアル」は、リニューアルしながら毎年考えていますが、やはり熊対応が大変ですので外部機関と連携し校内の各分掌とも連携し生徒に対して講座、講習会を開いたり、周知徹底し、自分で動けるようにもっていかればと次年度の課題として考えています。

#### ○教務部（鎌田）

本校では「生徒の学力向上」のため基礎学力を定着させていこうと各学年が主体となって指導しています。授業アンケート評価にもあるように、基礎学力が少しずつ身に付いてきていますが、生徒の学力に差が生じております。「個に応じた指導」が必要になっているので、各学年、朝学習やテスト前補習を行い、学年で差が出ないように学校で統一した指導をしていきたいと思っています。業務の効率化は今年から「すぐーる」を用いて成績通知票をネットで配信しております。これにより通知票、学級通信などをスムーズに保護者、生徒とも目にするできるようになったと思います。先生方も業務がより簡略化されたと感じています。来年度入学生からは“BYOD”によりPCは自分で購入し持ってくる方式になります。よりICTを活用した授業展開が望まれるということもあります。今年度は実施しませんが入試の自動採点システムが採用されてきております。そのために先生方も端末に慣れていき授業改善のためにICTをより活用して推進していくことが今後必要になってきます。業務も複雑化してきておりますので複数担当で行い、引き継ぎをスムーズに行えるよう改善していきます。

#### ○生徒指導部（由利）

今年度は、生徒昇降口で指導を行ったことにより、朝の遅刻が昨年度より大幅に減ったという成果が得られました。あいさつ、整容は概ねよろしいですが、女子生徒の指導に関しては共通理解し、指導していく必要があるかと思えます。

#### ○特別活動部（田口）

生徒会活動の活性化、部活動の活性化を目標に進めてきました。生徒会活動ですが、現在の生徒会役員は部活動に加入している生徒も多く、集まるのが大変な時もあります。そのため、生徒が一人1台持っているタブレットを使って進めることもあり、時間を有効活用することができました。部活動ですが、本校は第1体育館、第2体育館、武道場、トレーニングルーム、陸上競技場、テニスコート、野球場があります。冬期間は外が使えずサッカー部やソフトテニス部も体育館を使用するため、「施設使用計画簿」を作成して使用頻度を上げています。練習時間は短くなりますが短時間でも効果が期待されるよう工夫することで好成績につなげることができました。最後になりますが、生徒の活躍を看板で紹介し地域の皆様に観ていただくことができました。今年、部活動のHPを更新しました。入試も近くなってきましたが、地域の皆様や関心を持っている中学生にアピールすることができたと思えます。

#### ○進路指導部（大友）

進路指導部では、生徒一人一人が自らの適性や興味を踏まえて、生徒が自ら自分の進路を選択できるよう進路ガイダンスの充実、各学年部との連携強化、県が主催する企業ガイダンス等の事業への積極的参加、また、応募前職場見学を計画的に実施することによって、1回目で内定した生徒が沢山いたという成果を上げることができたと考えます。本校には、就職支援員の方がおり、3年生全員と個別面談を行いました。これにより生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路支援を実現す

ることができたと考えます。課題として、私は今年度から進路指導を担当してありますが、進路の意識については、生徒それぞれに意欲や将来感に個人差があります。モチベーションに個人差があり進路活動の効果が均等に表れないことが課題であると感じています。教頭から説明があったように「ハンディー」の有効活用を図り、今後は生徒へ個別に最適化された進路情報を提供したいと思います。また、ICTを活用し情報アクセスの充実や生徒の進路意識を今後も継続的に高めるように、学習活動の改善を含め生徒がより納得し進路を選択できるような環境づくりを強化していきたいと考えています。

#### ○図書・情報部（堀井教頭）

今年は特に学校祭で生徒主体の活動ができたことが良かった。一方、図書館の利用は特定の生徒に偏っているので幅広い活用のための取り組みを考えたいと思います。

#### ○保健・教育相談部（高橋留）

今年は暑かったが、大きな事故もなく部活動顧問の協力もあり、夏を乗り切ることができました。11月に入りインフルエンザの流行が例年よりも早く、これを防ぐことができずに学級閉鎖となったクラスがあったのが残念でした。また、今年度はインフルエンザだけではなくコロナウィルス、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、溶連菌など様々な感染症が流行しました。ウィルスは目に見えないものなので難しいことではありますが、個人の感染防止対策の意識付けが重要であると思います。基本的で正しい情報を提供しながら体も心も自ら健康管理ができるような取り組みを継続していきたいと考えています。環境整備に関しては、古い校舎ではありますが日々の丁寧な清掃の積み重ねと美化意識を身に付けさせることを念頭に活動していきたいと考えています。

#### ○研修部（堀井教頭）

授業改善に結び付けるために、授業互観週間と校内研究授業を開催しました。研究協議会でタブレットを利用した意見交換の体験もでき、有意義な協議会となりました。

#### ○国語科（堀井教頭）

夏休みに読書感想文の課題を出したことで、自ら本を選んだり図書館を利用したりする生徒が増えて良かったと思います。

#### ○地歴公民科（堀井教頭）

電子黒板で画像や動画を視聴させることにより生徒の興味、関心を引き出すことができました。また、社会情勢を意識させようとした切っ掛けもうまくいったと思います。

#### ○数学科（堀井教頭）

電子黒板やタブレットを使った授業を行い、理解や関心を高めようと努めました。

#### ○理科（堀井教頭）

工業科で関数電卓を使用するため仕方ない部分もありますが、少数や分数の簡単な計算は電卓を使わずに、すぐできるようにしたいと思います。

#### ○保健体育科（堀井教頭）

体力テストの結果を個人の日々の生活や授業の取り組みにつなげることができました。また、ICTを活用したダンスの単元が好感触でしたので、生徒の感性が高まるよう工夫していきたいと思っています。

#### ○芸術科（堀井教頭）

小学校や中学校で学習した内容を思い出させるような授業を心がけました。生徒は歌やアンサンブルなどに楽しそうに取り組みました。

### ○英語科（堀井教頭）

授業の始めに副教材を使った授業を行いました。考査にも出題することで英語が苦手な生徒も「勉強しなければ」という状況を作り出そうとしました。

### ○家庭科（堀井教頭）

ニュースや新聞で取り上げられている時事問題や情報など生活に身近な題材を取り上げて生徒の関心を高めるようにしました。調理実習では生徒同士で協力する姿勢が観られました。

### ○機械科（小林）

特に主体的な学習態度の育成に関連し、資格取得の奨励に力を入れており、今年度は計算技術検定3級は35名全員が合格し、情報技術検定3級は85%の合格率でした。この後、技能検定の機械検査が22名、旋盤作業は6名と例年よりも多くの生徒が受検し、今週末には筆記試験があり3月ぐらいに合否が決まります。技能検定合格率の向上、資格取得の向上のために日々の学習での関連付けを考えながら指導しています。

### ○電気科（野上）

今年度は残念ながら「工業基礎学力テスト」の申し込みができなかったことがありました。電気工事の学科試験の方へシフトし頑張らせました。その成果もあり、第2種電気工事士筆記試験では数年にないぐらい合格率が高く、7～8割合格しています。本日の校内課題研究発表会ではE A組、E B組から2組発表がありました。別にも全県大会で第2位に入賞した班もあります。担当者の指導もさることながら生徒たちの意欲は高いです。先ほども触れましたが、マイクロビットコンテストでの最優秀賞受賞も素晴らしいと思っています。今後もそのような活動を続けていきたいと思っています。

### ○土木・建築科（佐々木）

土木・建築科は他科と比べ女子生徒が非常に多い科になっております。2年生から土木コース、建築コースに分かれますが、その際にも女子生徒が混在して沢山います。そのことによっても進路指導に苦慮している状況ですが、「専門の会社に行きたい」、「公務員になりたい」、「技術職の公務員になりたい」という女子生徒たちが一生懸命しのぎを削って頑張っており、頼もしく感じています。重点目標3番目の資格取得に関しては国家資格が3つあります。測量士補、建築と土木の施工管理技術士補があります。土木と建築の施工管理の資格は7割ぐらいの合格率ですが、その反面、5月に行われる測量士補はなかなか合格率が高まらず、2桁ぐらいに合格率を高めたいと考えています。1年生の時から現場見学、企業説明会など外部と接触するような機会を沢山設けることで、現場での基本的な生活習慣を得られるよう指導しています。

### 意見・感想（齋藤委員）

I C T、I T化が進められているようで良い事だと思います。効率化することによって生徒に関われる時間が増えます。「人でないとできないこと」があるので効率化を進める有効性が参考になりました。

### (2) アンケート結果について

#### ①学校評価アンケート（保護者、教員）

##### 保護者アンケートから

回答率 89%（317/356名）

- 1 本校は教育方針を保護者にわかりやすく伝えているか？  
肯定的評価85%（昨年度81%）と高評価を得た。
- 2 本校は生徒の学校生活の様子を保護者に伝えているか？  
肯定的評価79%（昨年度75%）と高評価を得た。

- 3 本校は保護者からの要望を取り入れているか？  
肯定的評価55%であったが、「わからない」が43%あり保護者からの声に対する学校側の対応を知ってもらうことが大切である。
- 5 お子様は授業に対して、どのような意見や感想を家庭で話しているか？  
「わかる教科が多い」などの肯定的評価69%の反面「わからない、苦痛」が15%、「家庭で話を聞いたことがない」が17%あり、理解度や学力の二極化と学習についての会話の希薄さが気になる。
- 11 お子様は学校でどんなときが楽しいと話しているか？  
「部活動」が55%、「学校行事」が72%で、これらの満足度が高いといえる。
- 13 いじめの防止や不登校などへの対応について、効果的な指導がされているか？  
「わからない」が51%（半数）となっており、取り組み状況が家庭に伝わっていない。
- 15 生徒の進路達成に向けて、効果的指導がされているか？  
肯定的評価を得られた。
- 16 本校の現在の取り組みで、更に力を入れて欲しいものは？  
1位が「学習指導」、「進路指導」であり、これは保護者の期待の中心であり、本校の強みでもあるという結果である。
- 19 教育活動などに対するご意見から（自由記述）  
「制服や整容について」、「部活動について」、「学習時間の確保について」、「学校からの連絡に対する感謝」があげられる。批判もあるが期待と感謝が多数あり、これらも本校の強みであると感じた。

その他、資料のとおり。

#### 意見・感想（高野委員）

私もアンケートに答えたが、今回は娘と学校のことについて多く話すことがなかったこともあり「わからない」、「どちらかというところわからない」の回答をする項目が多かった。

#### 教員アンケートから

回答率 100%

達成度の4段階評価（4できた 3ほぼできた 2あまりできなかった 1できなかった）

達成度の平均 3.2（目安として 3.3以上：高評価、2.9以下：課題あり）

高評価の項目として「7経理」があげられる。本校校長が常々不祥事防止と適切な会計処理について指示を出しているため、その結果が表れているといえる。

低評価の項目として「14教科指導」があげられる。3点を超えているものもあるが2点台もある。自分自身への戒めを含めているようにも思えるが、教科指導や授業は学校の根幹であるので自己評価が改善されるよう努める必要がある。

全体的には、概ね達成できている自己評価となった。自由記述からは、業務量の偏り、スマホの取り扱いなどがあげられており、これらを課題として取り組んでいきたい。

#### 意見・質問（菅原委員）

日頃から生徒たちがお世話になっています。低めの評価結果の項目もありますが、これは少し厳しめに自己評価されたのかなと感じました。

#### ②授業評価アンケート

回答率 96%（342/356名）

評価の観点

①よく当てはまる ②やや当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

よく当てはまる、やや当てはまるの合計が全部の設問の90%以上となっている。生徒の授業に向かう姿勢が非常に良好であると見て取れる。一方、設問「9毎日、家庭学習している」は肯定的な回答が46%にとどまっている。明確な課題が見られる結果となった。学習規律、授業態度に関する内容の設問では、ほぼ90%以上が肯定的な回答で、基本的な生活習慣及び授業規律が十分に定着していると思われる。特に設問1、設問2は高い評価となった。設問「4質問に答えるときは、返事して起立」では2年生が「あまり当てはまらない」が15%と高く、中だるみが見られる。設問「5積極的に意見を交換したり、自分の意見を発表している」は主体的・対話的な学びに関するものだが概ね実現されている。しかし、2年生は否定的な「あまり当てはまらない」が22%と、少し高いのが課題である。対策としてはグループワーク、発表機会を増やすなどを多く取り入れていくことが有効であると思われる。設問6、7、8は学習定着に関するもので、プリントを出したり課題を提出したりし、理解度確認の意味でインプット・アウトプットは良好である。ノート、宿題、実習のレポートの提出は毎回あるが、良くなされている。設問10のICT活用については、生徒が端末を持ち運び、授業に取り組んでいる姿勢が良く見られる。ICT活用は十分に進んでおり学習ツールとして定着してきていると思われる。タブレットを実習でのレポート提出に使っている科もあり、「解る授業」が展開されていると思う。設問9の家庭学習については、課題が見られた項目である。学校内での学習規律が高くなっている一方、家庭学習習慣が形成されていない様子がうかがえる。特に2年生の数値が深刻で、学習の自律化に課題が残る結果となった。総合評価としては家庭学習習慣と主体的な発表、対話に改善余地があると見て取れる。「教えてもらう学習」から「自ら学ぶ学習意識」へ転換していかねばならないと思われる。改善策としては家庭学習の習慣化、グループ学習の定例化、役割分担による参加協力型などの授業体系にしていかなければいけないと考える。生徒の理解度の確認については、先生方は工夫をしているが授業の終わり5分の問題（リフレクション）や小テストなどを定着させ、授業を評価していきたい。家庭学習習慣と主体的学習への転換が来年度の重点課題である。

#### 意見・感想（村上委員）

一生懸命勉強し、授業に参加している様子がうかがえる環境であると感じる。家庭学習について習慣づけなければならないとのことだが、「宿題を出せば」という方向に行って欲しくはない。生徒、指導者の双方の負担を増やすのではなく、他の手立てで対処するよう検討していただきたい。

#### 意見・感想（成田委員）

アンケートを拝見したところ、各学年毎に項目分けされ計数的に数字として把握し分析されており、良い方法かと思う。ほぼ肯定的な意見であり、現場では生徒は良く勉強し、指導も良くされていると感じた。一般論であるが、良い点も大事であるが、「悪い点をどのように改善していくか」も大切である。次のステップを考える際は抽象的でなく、「具体的に伸び悩んでいる所」、「改善すべき点」をどうするべきかの具体的な方策が大事である。それを考えるのは難しいが、引き続きご尽力願いたい。

#### ③カリキュラム・マネジメントに関するアンケート（生徒、教員）

##### 生徒用から

学校の目標である「多様性に満ちた社会を創造するために大工生に身に付けさせたい力」を軸にし、生徒自身の学校生活や学習の取組状況を把握し、今後の教育活動を改善する事を目標に実施したアンケートである。全体の傾向をみるとほとんどの設問において「よく当てはまる」、「ほぼ当てはまる」とした割合が多数あり、学校が掲げる3つの柱「正・忍・創」の校訓のことを生徒が日頃からよく考えながら生活していると感じている。特に周りの人の話に耳を傾け先生の話を理解して聞く、基本的な学習態度に関する項目は全学年で肯定的評価が高かった。一方で主体的な学習行動は、自己表現に関わる所の肯定的評価がやや低下する傾向が見られた。今後の指導上の課題としてあげられる。改善に向けて、これまでの協働的、実践的な学習を基盤とし、学習計画の立案と振り返りを重視した指導、課題設定型、探究型学習の充実、安心して意見を発表できる授業の環境づくりを進めていくことが重要であると思われる。これにより「正・忍・創」の3つの力を相互に関係づけながら、より主体的に学び続ける生徒を育成したいと考えている。

### 教員用から

全体としては「よく当てはまる」、「ほぼ当てはまる」の割合が高く、学校の教育体制で「資質能力を意識した授業実践」を行っていることが分かった。授業理解のための工夫や話を聞く姿勢の育成などの基本的な授業改善については9割以上の肯定的回答が見られ、日常的な授業改善が定着していることが読み取れる。一方で、「課題発見」、「協働活動」、「意見発表」などでは、生徒の主体性や創造性に関わる部分で肯定的な割合が低下するという生徒との共通点が見られた。生徒を育成する上で「自分で課題を発見し、それを解決していく力」が重要になっていくので、強化していきたいと考えている。本校の授業は充実しているという結果が出たのでこれを生かし「主体性、創造性」を引き出す学習デザインの発展に今後力を入れていく必要がある。探究的な学習課題の設定や課題発見型の授業、協同的な学習を組み込んだ授業の設定、発表や対話を大切にした授業の工夫、家庭学習や課題提出の自己管理、これらを支援する仕組みづくりの必要がある。これを踏まえたカリキュラム・マネジメントを更に充実させていきたい。

### 意見・感想（山崎委員）

話の中で「家庭学習を押しつけるのではなく」とあったが、宿題などを全然できていない生徒へは、「まずは10分やってみてはどうか」ときっかけを与え続けてはどうだろうか。自分の子供に関しては、こちらから言わなくても習慣化されていた。小学校、中学校での「これをやったら、これ」という細かな積み重ね習慣から身に付いていった。少しずつ習慣づけていくことで、少しずつ改善されていくのではないかと思う。

## 3 閉会式

### (1) 挨拶（堀井教頭）

皆様からは本校の教育活動に関する貴重なご意見や地域の視点に立った温かいご提案を多く頂戴し心より感謝申し上げます。いただいたご意見は、今後の学校運営に生かし地域とともにある学校づくりを更に進めたいと考えております。生徒の成長のためには学校だけではなく、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えが欠かせないので今後も変わらないご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

### (2) 諸連絡

本日の議事録は、後日送らせていただきます。